

高 下関北高校だより

(令和5年2月17日発行)

山口県立下関北高等学校

〒759-5511 下関市豊北町滝部 1003 番地
TEL(083)782-0023 FAX(083)782-0183

高校生活の様子は下関北高校HPでも紹介しています。
<http://www.shimonosekikita-h.ysn21.jp>

■ 読書週間企画「アートの本棚」

本校図書館の読書週間企画として「アートの本棚」を実施しました。

本校では、読書週間の期間に合わせて、「アートの本棚」という展示企画を開催しています。展示会の図録や美術・芸術に関する書籍・雑誌を6,000点以上収集・貸出されている「アートの本棚」から、蔵書の一部をお借りして、本校の図書館に展示させていただきました。毎年テーマによって様々な展示をさせていただいて



ますが、本年は図書委員自身がテーマを決めたり、本を選んだりして、大変にぎやかなラインナップとなりました。図書館は授業での活用も積極的に行われているため、

休みだけではなく、授業前のちょっとした空き時間などに展示されている本を眺めたり、開いて読んでみたりする生徒もおり、芸術の秋に「アート」に触れる機会となったことと思います。

最後に、企画のために書籍・雑誌等のご提供や資料の作成をご協力いただきました、「北高夢ロード実行委員会」の皆さまに深く感謝申し上げます。

■ 進路ガイダンスを実施しました。

11月8日(火)の6限目と7限目に、1・2年生を対象とした進路ガイダンスを実施しました。

進路ガイダンスでは、進路意識の醸成と進路選択・検討のための情報収集を目的として、山口県や福岡県の大学・短大・専門学校など計26の学校等から講師をお招きし、23の会場に分かれて各学校等の説明をしていただきました。

1・2年生は、23の会場から2つの会場を選び、6限目と7限目に各会場で説明を受けました。講師の方からは、学部学科やコースで学ぶことができる内容や取得できる資格、各学校のセールスポイント、入学試験の種類や試験内容、そして卒業後の就職先などについて詳しく説明をしていただき、生徒の皆さんは大変熱心に聞いていました。各講座の受講者数が少人数のため、充実したガイダンスとなりました。



現在、3年生の中には推薦入試やAO入試を受けている人もいます。2年生も1年後には同じ状況になることから、自分の進路についてしっかり考え、目標を定めて本格的に努力する時期にきています。また、1年生についても、将来の夢や目標を考え、今できる努力を着実に進むことが極めて重要です。この度のガイダンスをきっかけに、皆さん一人ひとりが夢の実現に向けての努力を始められることを期待しています。

■ 進路ガイダンスに御協力いただいた学校等

九州栄養福祉大学、東筑紫短期大学、梅光学院大学、山口学芸大学/山口芸術短期大、九州女子大学、九州共立大学、九州国際大学、エリザベト音楽大学、東亜大学、下関短期大学、平岡調理・製菓専門学校、平岡介護福祉専門学校、小井手フッショナルティ専門学校、九州医療技術専門学校、大原学園、麻生塾、YICグループ、KCS北九州情報専門学校、福岡美容専門学校、よしみず病院附属看護学院、下関看護リハビリテーション学校、専門学校日本デザイナー学院 九州校、下関福祉専門学校、公務員講演会(大原学園)、就職後援会((株)ライセンスアカデミー)【順不同 敬称略】

■ 薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室。を実施しました。

11月10日(木)7限、「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室。」を実施しました。青少年の薬物による被害の実態を把握し、その害悪について学ぶことを目的に、毎年実施しています。

山口県小串警察署 刑事生活安全課生活安全係から中野正昭先生を講師にお招きし、薬物乱用防止に向けての講話を実施しました。また、体育館入り口に総合文化部による薬物乱用防止のポスターと標語による発表展示も行いました。講話の最初に高校生を対象とした薬物乱用防止啓発DVD「Trap」を全員で視聴しました。薬物の依存性、耐性、再燃現象についての説明とともにショッキングな内容も含まれていましたが、薬物乱用の恐ろしさが見えるDVDでした。DVD視聴の後に、中野先生から、①薬物乱用とは②危険のある薬物③大麻について④薬物乱用のもたらす影響の4点について丁寧に説明がありました。特に大麻については10代、20代の使用が増加傾向にあり、ゲートウェイドラッグとなっていることや、薬物使用が及ぼす身体への悪影響などについて深く学びました。講話の後に風紀委員長の中野純音さんが「高校1年生から3年生まで薬物乱用防止の講話を3回聞きましたが、私たちが一度でも使用すると壊れてしまうことが良く分かり、決してそのようなことにならないようにしようと思います。」と謝辞を述べて教室が終了しました。



今日の教室をきっかけに、あらためて「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。」を心に刻んで欲しいと思います。

■ 赤い羽根共同募金を実施しました。

生徒会執行部が11月7日(月)、8日(火)、9日(水)に令和4年度赤い羽根共同募金の募金運動を行いました。豊北地区共同募金委員会では、地域に根差した募金運動を実施しており、寄せられた浄財は豊北町内の地域福祉活動の推進や山口県域で活動する福祉団体等への事業支援などに使われます。本校では例年、共同募金運動に参加しており、今年度も参加させていただきました。

生徒会役員は、生徒の登校時間に合わせて、生徒昇降口に立ち、さわやかな挨拶をしながら募金をお願いしていました。教員への募金も行い、合計で6,898円が寄せられました。

11月17日(木)には生徒会長、副会長が豊北地区共同募金委員会へ寄せられた浄財を届けました。赤い羽根共同募金の意義について、お話を聞かせていただくこともできました。



■ 大錦龍(谷本誠一郎君)が来校されました。

この春に本校を卒業した相撲部の谷本誠一郎君(四股名:大錦龍(だいきんりゅう))が日本相撲協会、境川部屋に入門し、境川親方(元西国関)、山科親方(元豊響関)をはじめ多くの親方の御指導の下、日々稽古に励んでいます。大相撲5月場所で初土俵を踏み、序ノ口九枚目からのスタートとなりましたが、5月場所 4勝3敗 七月場所 5勝2敗 九月場所 5勝2敗と順調に力を付けて、序二段三枚目で九州場所に臨みました。九州場所は怪我の影響もあり3勝4敗でしたが、場所後に本校を来校され元気な姿を見せてくれました。厳しい勝負の世界で頑張っている様子や兄弟子たちから良く面倒を見てもらっていることなど充実した日々を送っているとのことでした。

来年1月に行われる初場所では勝ち越し、三段目昇格となるよう学校あげて応援しています。



■ 豊北地区小中高合同清掃が実施されました。

11月30日(水)期末考査終了後に豊北地区小中高清掃活動を実施しました。この取組は今年の1月6日に実施された豊北小学校代表児童、豊北中学校及び下関北高校生徒会による熟議の中で提案されたプロジェクトの一つが具現化されたものです。豊北小学校5・6年生67名、豊北中学校1・2年生72名、下関北高校の生徒会・JRC部・参加希望の生徒72名が参加しました。豊北地区の小中高の児童・生徒が集まって清掃活動を行うのは初めての試みで、各学校の学校運営協議会の委員の方や地域の方の協力もあり実現しました。小中高の児童・生徒は18の班に分かれて高校生が小学生、中学生の安全を見守りながら清掃活動を行いました。各班の清掃コースについても下関北高の生徒会執行部が時間配分を考えながら決定しました。



今年度は学校周辺の清掃活動だけでなく、海岸清掃など地域のクリーン作戦を地域の方々の協力もあり積極的に実施しています。下関北高として、清掃活動にとどまらず、いろいろな環境問題に取り組んでいこうと思います。



■ 滝部駅クリスマス装飾プロジェクト

JRC部の8名が中心となって、滝部駅のクリスマス装飾を行いました。「甞れ!通学のまち バック・ツー・ザ・フューチャー プロジェクト」と名付けたこのプロジェクトは、滝部駅からの通学路に賑わいを取り戻し、豊北地域における活力あるまちづくりのため、高校生ができる地域貢献活動の1つとして毎年実施しています。昨年より駅舎の管理を行っている豊北町むらおこし物産振興協同組合の方と合同で実施しています。また、2名の下関市地域おこし協力隊の方にもご協力いただきました。

まずは木材の骨組みに杉を飾りつけクリスマスツリーを作成しました。さらに駅舎や花壇にイルミネーションを取り付けることで華やかな雰囲気になりました。



■ 地元の旬の魚で魚料理実習

毎年、豊北地区魚食普及推進協議会のご好意で、魚食の啓発・地産地消の推進展開のため、旬の魚を提供していただき、漁協女性部のご指導により魚料理実習を行っています。今年度は、「地域探究Ⅰ」を選択している2年生と「地域探究Ⅱ」を選択している3年生を対象に、11月17日(木)、12月15日(木)の2回に分けて、地元産の魚を使った調理実習を実施しました。

協議会の皆様からは、新鮮なケンサキイカとアジを提供していただき、アジ・イカのさばき方を教えていただきました。アジはウロコを取り、エラや内臓も取り除き、腹開きにします。また、イカは胴の中に親指を入れ、ワタと胴をゆっくりはがし、エンペラと足を持ち、足の部分をワタごと引き抜きます。次に、胴の皮をキッチンペーパーでむき、足の付け根の部分で足とワタを切り離し、目の部分に切り込みを入れて硬いくちばしと目玉を取り除きました。そして、下処理したアジとイカを使って、アジのひらき(一夜干し)とケンサキイカのバエリアに挑戦しました。

アジやイカの下処理をするのが初めてで、おぼつかない手つきの生徒もいましたが、協議会の皆様から丁寧にご指導していただき、立派な料理が完成しました。できあがった料理は、協議会の皆様と生徒、教職員で美味しくいただきました。新型コロナウイルス感染症の影響で楽しく歓談しながらの食事はできませんでしたが、実習を通して、魚の調理方法を学ぶことができ、同時に、豊北町の伝統的な産業である漁業についての理解も深まりました。

